

# 教育実習から「教職実践演習（中学・高校）」に つながる課題意識

鈴木 そよ子

## はじめに

2009（平成21）年4月の教育職員免許法改正により、2010（平成22）年度入学者から4年次後期の必修科目として「教職実践演習」が設置された。教育実習後に教員免許状を当該学生に与えるかどうかを最終的に判断する授業として位置づけられている。「教職実践演習」の授業が始まって、今年度で6年になる。

教職課程を履修している学生の場合、4年次後期の授業が始まる時点で、学生の状況は主に5つに分けられる。1つめは公立校の教員採用試験の1次試験に合格し、2次試験受験後の結果を待っている者、2つめは1次試験の段階で不合格となり、臨時的任用や非常勤講師となる準備をしている者、3つめは私立学校の教員を考えている者、4つめは一般企業への就職を希望する者、5つめは大学院に進学する者。それぞれの状況によって、4年次後期の教職課程の授業に取り組む学生の姿勢が異なる。だが、文部科学省の授業内容例をもとにしたシラバスに従って、授業が運営されているのが現状である。

本稿では、現状を踏まえながらも、学生自身が教育実習を経て「もっと力をつける必要があ

ると思うこと」と考えた内容に注目する。自分が教育実習を経て捉えた課題を「教職実践演習」におけるテーマにできれば、どの状況にある学生にとっても次のステップにつながるのではないかと考える。

「もっと力をつける必要があると思うこと」の具体的な検討対象とするのは、本学湘南ひらつかキャンパスの2012（平成24）年度前期教育実習生24名と2013（平成25）年度前期教育実習生39名である。

「教職実践演習」に関わる先行研究は多い<sup>1</sup>。そのなかで、なぜ「教職実践演習」が設置されねばならなかったのかを明確に示している、池田賢市『「教職実践演習」のストップを』<sup>2</sup>を挙げる。教員免許更新制はもともと「不適格教員」の排除をねらいとして導入されたが、池田氏によれば、「適格性」の判断をしていない教員養成制度の上に教員免許更新制は成り立たないため、新たに教員養成制度に「適格」という判断をする仕組みが必要とされた。養成段階での「適格性の確保」を担って設置されたのが「教職実践演習」であるという指摘によって、「教職実践演習」の位置づけに対するあいまいさが払拭された。

<sup>1</sup> 大島英樹「教職に関する科目としての『教職実践演習』の意味－『総合演習』との比較において－」立正大学心理学研究所紀要第9号、2011、pp.27-38。深川八郎『「教職実践演習」の取り組みと課題」摂南大学教育学研究vol.10、2014、pp.1-6など。

<sup>2</sup> <http://koukyouiku.jp/cp-bin/wordpress/wp-content/uploads/2016/09/koramuNo.6.pdf#search=%27%E3%80%8C%E6%95%99%E8%81%B7%E5%AE%9F%E8%B7%B5%E6%BC%94%E7%BF%92%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%83%E3%83%97%E3%82%92%27> 2017/12/12

資料として用いるのは、文部科学省のWebサイト情報と、2012(平成24)年度から2016(平成28)年度までの前期に本学の湘南ひらつかキャンパスで教育実習に出た全学生のアンケートの回答が掲載されている『神奈川大学 心理・教育研究論集』<sup>3</sup>である。2012(平成24)年度教育実習生の回答、2013(平成25)年度教育実習生の回答を資料として用いる。

本稿の構成は、Ⅰで湘南ひらつかキャンパス教職課程の概要について述べ、Ⅱで文部科学省が示している「教職実践演習」の授業内容例、到達目標、確認指標例、そして、本学のシラバス等を4つの事項に区分して整理する。Ⅲで学生が教育実習後、「もっと力をつける必要があると思うこと」を4つの事項に区分して整理し、検討する。

## Ⅰ 湘南ひらつかキャンパス教職課程

本学湘南ひらつかキャンパスでは、厳格な課程運営によって、免許取得に対する責任を果たしてきた。具体的には、単位修得条件を緩めず、資格試験合格も課すことで専門教科にかかわる学力を担保してきた。

湘南ひらつかキャンパスには、経営学部と理学部がある。1992(平成4)年度から2015(平成27)年度卒業生までで、教員免許状を取得した学生は1002名を数え、そのうち、少なくとも40%の卒業生が教職に就いている<sup>4</sup>。

1年次で仮登録をしてから免許状の取得までに、いくつかのハードルがある。2018(平成30)年度現在でみると、1年次配当の3科目すべての単位を修得できた者が「教科教育法Ⅰ」を履修できる。数学・理科の「教科教育法Ⅰ」を履修するには、当該教科の基礎学力試験にも

合格する必要がある。

教育実習の内諾を依頼するのは3年次であるが、そのためには2年次終了時点での単位修得数の条件と、教育実習教科ごとに設定された検定試験に合格するという条件を満たす必要がある。

さらに、4年次で教育実習に出るためには、3年次終了時点で単位修得数の条件を満たさねばならない。

1年次の仮登録者数は年によって、110名から150名前後であるが、4年次で教育実習に出られるのは20人から30人程度になる。科目等履修生や大学院生として教育実習に出る学生もいるので、近年の教育実習生の人数は50名から20名位の幅で動いている。

## Ⅱ 文部科学省による「教職実践演習」の設置趣旨と具体例の提示

「教職実践演習(仮称)」の設置趣旨を、文部科学省による「教職実践演習(仮称)について」の説明にみると「教職実践演習(仮称)」は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた『学びの軌跡の集大成』として位置付けられるものである。学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。<sup>5</sup>と、かなり柔らかな表現になっているが、

<sup>3</sup> 『神奈川大学 心理・教育研究論集』神奈川大学教職課程研究室、2013年、第33号、第34号、2014年、第36号、2015年、第38号、2016年、第40号に掲載されている。

<sup>4</sup> 「教育実習後レポートと参考表」『神奈川大学 心理・教育研究論集』第40号、神奈川大学教職課程研究室、2016年、p.194参照。

<sup>5</sup> [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm) 2018/08/12

ポイントは「学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり」にあり、「教職実践演習」の設置を提案した中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」<sup>6</sup>においてはさらに明確に「今後は、教員として最小限必要な資質能力の全体について、教職課程の履修を通じて、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認することが必要である。具体的方策としては、教職課程の中に、新たな必修科目（「教職実践演習（仮称）」）を設定し、その履修により確認することが適当である。」<sup>7</sup>と述べられている。

「最小限必要な資質能力」の内容を示したものが、表1「教員として求められる4つの事項と4つの区分に従った授業内容例」の4つの事項である。表1を教職課程の1年次から4年次までの他の科目とあわせてみると、他の科目と重なる部分も多い。

「1 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」は、本学の教職科目での「教職論」「教育原論」「教育と社会」の目標と重なるし、「2 社会性や対人関係能力に関する事項」は「道徳教育論」「教育実習」「介護等体験指導」と重なるし、「3 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項」は「生徒指導論」「特別活動論」「教育相談概論」「教育相談演習」「教育実習指導Ⅰ」「教育実習指導Ⅱ」「教育実習」と重なるし、「4 教科・保育内容等の指導力に関する事項」は「教育課程論」「教育方法論」「教科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「教育実習指導Ⅰ」の目標や授業内容

と重なり合う。これらの授業を受ける中で4つの事項に関する基礎は育まれているといえる。

「教職実践演習」では、4つの事項を学生に明示し、活動的な学習を通して確認していくことが他の科目との違いでもあろう。「教職実践演習」の授業運営との関係では表1の注に注目したい。

「(注) 授業内容例は、どのような授業を行えば、学生が教員として最小限必要な資質能力の全体を修得しているか（理解しているか、身に付いているか）確認できるかを例示したものである。課程認定大学においては、本科目の中で、上述の授業内容例を必ずしもすべて行う必要はなく、科目に含めることが必要な事項1～4が全体として確認できるよう、適宜、組み合わせて授業を編成することが望ましい。」<sup>8</sup>

この注によると、授業内容例として11例挙げられているが、4つの事項が全体として確認できれば、実施内容や形態は各大学に任せられることになる。

<sup>6</sup> [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337006.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337006.htm)  
2018/08/21

<sup>7</sup> [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1346158.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1346158.htm)  
2018/08/12

<sup>8</sup> [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm)  
2018/08/20

表1 教員として求められる4つの事項と4つの区分に従った授業内容例

1	2	3	4
使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項	社会性や対人関係能力に関する事項	幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	教科・保育内容等の指導力に関する事項
1 様々な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）や事例研究のほか，現職教員との意見交換等を通じて，教職の意義や教員の役割，職務内容，子どもに対する責務等を理解しているか確認する。			
1 学校において，校外学習時の安全管理や，休み時間や放課後の補充指導，遊びなど，子どもと直接関わり合う活動の体験を通じて，子ども理解の重要性や，教員が担う責任の重さを理解しているか確認する。			
		3 学校において，校外学習時の安全管理や，休み時間や放課後の補充指導，遊びなど，子どもと直接関わり合う活動の体験を通じて，子ども理解の重要性や，教員が担う責任の重さを理解しているか確認する。	
	2 役割演技（ロールプレイング）や事例研究，学校における現地調査（フィールドワーク）等を通じて，社会人としての基本（挨拶，言葉遣いなど）が身に付いているか，また，教員組織における自己の役割や，他の教職員と協力した校務運営の重要性を理解しているか確認する。		
	2 関連施設・関連機関（社会福祉施設，医療機関等）における実務実習や現地調査（フィールドワーク）等を通じて，社会人としての基本（挨拶や言葉遣いなど）が身に付いているか，また，保護者や地域との連携・協力の重要性を理解しているか確認する。		
	2 教育実習等の経験を基に，学級経営案を作成し，実際の事例との比較等を通じて，学級担任の役割や実務，他の教職員との協力の在り方等を修得しているか確認する。		
		3 教育実習等の経験を基に，学級経営案を作成し，実際の事例との比較等を通じて，学級担任の役割や実務，他の教職員との協力の在り方等を修得しているか確認する。	
		3 いじめや不登校，特別支援教育等，今日的な教育課題に関しての役割演技（ロールプレイング）や事例研究，実地視察等を通じて，個々の子どもの特性や状況に応じた対応を修得しているか確認する。	
		3 役割演技（ロールプレイング）や事例研究等を通じて，個々の子どもの特性や状況を把握し，子どもを一つの学級集団としてまとめていく手法を身に付けているか確認する。	
			4 模擬授業の実施を通じて，教員としての表現力や授業力，子どもの反応を活かした授業づくり，皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法等を身に付けているか確認する。

1	2	3	4
使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項	社会性や対人関係能力に関する事項	幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	教科・保育内容等の指導力に関する事項
			4 教科書にある題材や単元等に応じた教材研究の実施や，教材・教具，学習形態，指導と評価等を工夫した学習指導案の作成を通じて，学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身に付けているか確認する。

（注）授業内容例は，どのような授業を行えば，学生が教員として最小限必要な資質能力の全体を修得しているか（理解しているか，身に付いているか）確認できるかを例示したものである。課程認定大学においては，本科目の中で，上述の授業内容例を必ずしもすべて行う必要はなく，科目に含めることが必要な事項1～4が全体として確認できるよう，適宜，組み合わせて授業を編成することが望ましい。

（注－鈴木）4つの事項は，資料では箇条書きになっている。授業内容例は，一覧表になっている。出所の資料をもとにして，鈴木が4つの事項別の表にした。「主として関連する項目番号」は文部科学省の判断として，資料の第2欄に記されているものである。これを同一欄に記載した。1つの内容で複数の項目番号が挙げられている場合は，双方ともグレー背景とし，再掲している。

出所：

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm) 2018/08/20

さらに，文部科学省が示している到達目標及び目標到達の確認指標例が，表2「到達目標及び目標到達の確認指標例」である。表1と表2を合わせて見ると，表2の到達目標や確認指標例はすでに教員になっている立場の人を毎日詳細に観察して導き出される内容とみえる。表1の「1 使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項」に対応した授業内容例である，ロールプレイングや現職教員との意見交換から「1 使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項」の到達目標及び目標到達の確認指標例を導き出すには荷が重く，子どもとの関わりとして出されている例は，継続的に学校に一日中ボランティアで入っているような活動が必要になる。しかも，それに付き添うように大学の教員が引率して，分かるような内容となっている。

表1，表2の「2 社会性や対人関係能力に関する事項」について，一般的な社会性や対人関

係ならば大学の授業の中でも場面設定をし，評価をすることもできるだろうが，教師相互の関係や，保護者さらに地域まで話が広がると，ロールプレイングでは評価することが難しい。教育実習でも指導教諭がそこまで見られるとは思えない。



表2 「教職実践演習」の到達目標及び目標到達の確認指標例

1	2	3	4
使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項	社会性や対人関係能力に関する事項	幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	教科・保育内容等の指導力に関する事項
1. 到達目標			
<p>○ 教育に対する使命感や情熱を持ち，常に子どもから学び，共に成長しようとする姿勢が身に付いている。</p> <p>○ 高い倫理観と規範意識，困難に立ち向かう強い意志を持ち，自己の職責を果たすことができる。</p> <p>○ 子どもの成長や安全，健康を第一に考え，適切に行動することができる。</p>	<p>○ 教員としての職責や義務の自覚に基づき，目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。</p> <p>○ 組織の一員としての自覚を持ち，他の教職員と協力して職務を遂行することができる。</p> <p>○ 保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。</p>	<p>○ 子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し，豊かな人間的交流を行うことができる。</p> <p>○ 子どもの発達や心身の状況に応じて，抱える課題を理解し，適切な指導を行うことができる。</p> <p>○ 子どもとの間に信頼関係を築き，学級集団を把握して，規律ある学級経営を行うことができる。</p>	<p>○ 教科書の内容を理解しているなど，学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身に付けている。</p> <p>○ 板書，話し方，表情など授業を行う上での基本的な表現力を身に付けている。</p> <p>○ 子どもの反応や学習の定着状況に応じて，授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p>
2. 確認指標例			
1	2	3	4
使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項	社会性や対人関係能力に関する事項	幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	教科・保育内容等の指導力に関する事項
<p>○ 誠実，公平かつ責任感を持って子どもに接し，子どもから学び，共に成長しようとする意識を持って，指導に当たることができるか。</p> <p>○ 教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき，自発的・積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢を持っているか。</p> <p>○ 自己の課題を認識し，その解決に向けて，自己研鑽に励むなど，常に学び続けようとする姿勢を持っているか。</p> <p>○ 子どもの成長や安全，健康管理に常に配慮して，具体的な教育活動を組み立てることができるか。</p>	<p>○ 挨拶や服装，言葉遣い，他の教職員への対応，保護者に対する接し方など，社会人としての基本が身に付いているか。</p> <p>○ 他の教職員の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに，理解や協力を得ながら，自らの職務を遂行することができるか。</p> <p>○ 学校組織の一員として，独善的にならず，協調性や柔軟性を持って，校務の運営に当たることができるか。</p> <p>○ 保護者や地域の関係者の意見・要望に耳を傾けるとともに，連携・協力しながら，課題に対処することができるか。</p>	<p>○ 気軽に子どもと顔合わせたり，相談に乗ったりするなど，親しみを持った態度で接することができるか。</p> <p>○ 子どもの声を真摯に受け止め，子どもの健康状態や性格，生育歴等を理解し，公平かつ受容的な態度で接することができるか。</p> <p>○ 社会状況や時代の変化に伴い生じる新たな課題や子どもの変化を，進んで捉えようとする姿勢を持っているか。</p> <p>○ 子どもの特性や心身の状況を把握した上で学級経営案を作成し，それに基づく学級づくりをしようとする姿勢を持っているか。</p>	<p>○ 自ら主体的に教材研究を行うとともに，それを活かした学習指導案を作成することができるか。</p> <p>○ 教科書の内容を十分理解し，教科書を介して分かりやすく学習を組み立てるとともに，子どもからの質問に的確に答えることができるか。</p> <p>○ 板書や発問，的確な話し方など基本的な授業技術を身に付けるとともに，子どもの反応を生かしながら，集中力を保った授業を行うことができるか。</p> <p>○ 基礎的な知識や技能について反復して教えたり，板書や資料の提示を分かりやすくするなど，基礎学力の定着を図る指導法を工夫することができるか。</p>

(注1)

到達目標は、学生が具体的にどの程度のレベルまで修得している（身に付いている）ことが必要であるかを示した基本的・共通的な指標である。したがって課程認定大学の判断により、これらの到達目標に加えて別の目標も設定することは可能である。

(注2)

確認指標例は、どのような観点に基づけば、到達目標に達しているかどうか確認できるかを例示したものである。課程認定大学においては、到達目標との関連を考慮して、適宜、確認指標例を組み合わせた、あるいは別の確認指標例を付加して確認を行うことが望ましい。

(注－鈴木) 出所の表の欄を横・縦逆にして、表1とのつながりを見やすくした。

出所：

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm) 2018/08/20

具体的な授業例としては、「授業内容に応じて、例えば教室での役割演技（ロールプレイング）やグループ討論、実技指導のほか、学校や教育委員会等との協力により、実務実習や事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業等を取り入れることなどが考えられる。」<sup>9</sup>とされている。資料1「想定される主な授業形式」は「役割演技（ロールプレイング）」「事例研究」「現地調査（フィールドワーク）」についての文部科学省の説明である。

#### 資料1「想定される主な授業形式」

##### ・「役割演技（ロールプレイング）」

ある特定の教育テーマ（例えば、いじめ、不登校等）に関する場面設定を行い、各学生に様々な役割（例えば、生徒役、教員役、保護者役等）を割り当てて、指導教員による実技指導も入れながら、演技を行わせる。

##### ・「事例研究」

ある特定の教育テーマに関する実践事例について、学生同士でのグループ討議や意見交換、研究発表などを行わせる。

##### ・「現地調査（フィールドワーク）」

ある特定の教育テーマに関する実践事例について、学生が学校現場等に出向き、実地で調査活動や情報の収集を行う。

○ 学生に自己の課題を自覚させ、主体的にそ

の解決に取り組むことを促すため、本科目の履修に当たっては、役割演技（ロールプレイング）や事例研究、指導案の作成等の成果を省察する観点から、単に映像記録等を残したり、感想文を書かせるだけではなく、例えば学生に実践記録を作成させる等の工夫が求められる。

○ 受講者数は、演習科目として適正な規模（授業内容、方法等にもよるが、おおむね20名程度）とし、演習の効果が最大限に発揮されるよう配慮することが望ましい。受講者数が増える場合には、大学の実情に応じて、ティーチングアシスタント（TA）等を活用するなど、授業形態の工夫を図る必要がある。

出所：

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm)

2018/08/12

授業プランニングの際に、表2と資料1の間の埋めるものとして、表3『「教職実践演習」の授業で取り扱う内容・方法例』を挙げる。

<sup>9</sup> [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm) 2018/08/12

表3「教職実践演習」の授業で取り扱う内容・方法例

1	2	3	4
使命感や責任感，教育 的愛情等に関する事項	社会性や対人関係能力 に関する事項	幼児児童生徒理解や学 級経営等に関する事項	教科・保育内容等の指 導力に関する事項
●イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論			
●教職の意義や教員の役割，職務内容，子どもに対する責任等についてのグループ討論・ロール プレイング			
	●社会性や対人関係能力（組織の一員としての自覚，保護者や地域の関 係者との人間関係の構築等）についての講義・グループ討論		
		●幼児児童生徒理解や学級経営についての講 義・グループ討論	
		●学級経営案の作成・グループ討論	
●学校現場の見学・調査			
	●社会性，対人関係能力，幼児児童生徒理解，学級経営についてのグルー プ討論		
			●教科・保育内容等の 指導力についての講 義・グループ討議
			●模擬授業
			●教科・保育内容等の 指導力についてのグ ループ討論
●資質能力の確認，まとめ			

（注1－鈴木）●で箇条書きにされた内容を鈴木判断で4つの事項に区分した。

（注2－鈴木）●の書き出しのところが該当する区分となっている。

（注3－鈴木）グレー背景の欄は，4区分全体にかかわると判断する内容である。

出所：

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/attach/1303555.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/attach/1303555.htm) 2018/08/20

中央教育審議会 教員養成部会（第62回）配付資料 資料8-2

文部科学省の例示に基づいて作成されたものが，本学の「教職実践演習（中学・高校）」シラバスである。表4「4つの事項区分『教職実践演習（中学・高校）』神奈川大学シラバス2018年度」は14回の授業内容を4つの項目に区分して表示したものである。表3『教職実践演習』の授業で取り扱う内容・方法例の内容を網羅する形で構成されている。



表4 4つの事項区分「教職実践演習（中学・高校）」神奈川大学シラバス（2018年度）

1	2	3	4
使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項	社会性や対人関係能力に関する事項	幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	教科・保育内容等の指導力に関する事項
1. 教育実習等の省察－履修カルテを活用して－シラバスの記載事項について確認			
2. (特別講義) 卒業生教員の「ふりかえり」を聞く			
		3. (特別講義) 教育委員会・学校等による実践研究の紹介	
4. 自らの課題設定と共同実践研究の構想			
		5. 学校現場の見学・調査	
6. 教師の「責任」をめぐるグループ討論			
	7. 教師・生徒・保護者のロールプレイ		
	8. 地域の保護者とのグループ討論		
		9. 学級経営案をめぐるグループ討論	
			10. 授業研究の最前線の理解
			11. 模擬授業
			12. 映像資料をもとにした授業検討
13. 共同実践研究構想の報告会			
14. 共同実践研究構想の報告会をふまえた課題の確認			

（注1－鈴木）簡条書き表記のシラバスを鈴木判断で4つの事項に区分した。

（注2－鈴木）回数書き出しのところが該当する区分となっている。

（注3－鈴木）グレー背景の欄は，4区分全体にかかわる内容と判断した。

出所：

ku-syllabus.kanagawa-u.ac.jp/syllabus\_pub/main.do?action=variousMain&year=2018 2018/08/20

### Ⅲ 教育実習後の課題意識

湘南ひらつかキャンパスの教職課程では，教育実習終了後の提出物の一つとして，「教育実習後レポート」を課している。学生は教育実習記録に日々の記録，研究授業の記録，全体のまとめを記すが，これとは別に，A4両面の教育実習レポート<sup>10</sup>を提出する。この質問項目の一つとして，「1. ③もっと力をつける必要があると思うこと」がある。学生が教育実習を体験して実感した自分自身の課題を率直に表現している項目である。

先述したように，2012（平成24）年度から2016（平成28）年度までの前期教育実習生の回答が『神奈川大学 心理・教育研究論集』の第33号，第34号，第36号，第38号，第40号に掲載されている。この中から，第33号に掲載されている2012（平成24）年度教育実習生の回答，第34号に掲載されている2013（平成25）年度教育実習生の回答を4つの項目に区分したものが，表5－1「もっと力をつける必要があると思うこと2012（平成24）年度」，表5－2「もっと力をつける必要があると思うこと2013（平成25）年度」である。これによって，

<sup>10</sup> 『神奈川大学 心理・教育研究論集』神奈川大学教職課程研究室，2013年，第33号，p.187参照。

学生の側から見た教育実習から「教職実践演習 (中学・高校)」につながる課題意識をみる。

第一に、学生自らの課題意識は、「教職実践演習」に含めることが適当とされる4項目のうち、「4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項」に集中している。指導内容のバックグラウンドともいえる専門知識、時事や日常や教養から始まり、授業の進め方、板書、発問の仕方、発声、生徒との言葉のやりとりなど。人生で初めて、中学生や高校生を前にして授業をした体験が学生にいかに大きな衝撃を与えたかが窺える。授業を起点にして、より良いものを模索している姿がある。

第二に、「3. 幼児児童生徒理解や学級運営等に関する事項」に関して、もっと力をつける必要があると捉えていることである。生徒一人ひとりとのかかわり方、クラスのまとめ方等。学年進行の途中で、授業や学級活動に入っていく教育実習生だからこそ感じた難しさはあるだろうが、学級担任として、教科担当者として必ず考えねばならない問題に気づいたことを意味している。

「2. 社会性や対人関係能力に関する事項」や「1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」は教育実習期間のうちには正面から課題として自覚し難い領域なのかもしれない。

表5-1 「もっと力をつける必要があると思うこと」 2012(平成24)年度(29名)

主として関連する事項区分			
1 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項			
	2 社会性や対人関係能力に関する事項		
		3 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	
			4 教科・保育内容等の指導力に関する事項
			国-A 授業を行う為の知識が全然足りないと感じた。
			国-B プレゼンテーション能力・何を伝えたいか、ポイントを明確に。
			国-C 生徒が理解できる説明をすることができなければならない。
			情-A 今回の実習を通して、字を上手く書けるようにならなければいけないということを実感しました。沈黙を恐れずに「考える間」を作っていける授業展開をしていきたい。
			情-B 授業においては、単調になりやすい点を改善しなければいけない。どうしたら分かりやすく生徒の回りのことで例えられるのか。達成感を与えるのにはどうしたらよいのか。
			情-C 授業の内容を分かりやすく説明できるようにする。
			情-D 黒板力 大事な所はしっかり黒板に記す。
		情-E 生徒は、先生はなんでも分かると思っているので、数学の知識はもちろん、いろいろな知識をもっておくことが必要であると感じた。	
		情-F 1つ目に「話す力」です。(略) 話す言葉をよりシンプルに分かりやすく、明確に伝えられるようにこれから訓練していきたいと思います。 2つ目に板書についてです。(略) 板書で書くことを必要最低限にし、いかに子供達に負担をかけさせないようにまとめられるのかを考えていかなければと思いました。また板書をする際に、黒板の中でまとまりを意識するようにし、最後に黒板を見た時に今日何をしたのが明確に分かるような板書力を身につけていきたいなと思います。(図やグラフをあらかじめ作っておくとよい！)	

主として関連する事項区分			
1 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項			
	2 社会性や対人関係能力に関する事項		
		3 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	
			4 教科・保育内容等の指導力に関する事項
			情－G ・問題の難易度の設定 段階ごとに難易度を変えていき、生徒がつまづいて途中で投げ出さないように工夫する必要があると思った。
			情－H ・板書計画 黒板1枚でおさめされるように授業を作ること。 ・教え方の工夫 生徒が内容に入りやすくなるような教え方を考えること。 ・生徒の声をひろって、そこから授業を広げられるような対応力
			情－I ・指導力（発問、発言、教材、板書）
	情－I ・社会性・人間性（自分の弱みの克服）		
			情－J 言語力。生徒たちに伝えるためにどのような言葉を使えば良いのかわからなかった。
			情－K ホームルームで指導する能力。連絡事項をただ伝えるのではなく、注意して欲しいところでは、生徒に注目してもらえるような話術は今後身に付けるべきだと思う。
			情－L 「生徒はノートを書きながら同時に聞くことはできない」 よって書く時と聞く時の指示を明確にする必要がある。
			化－A 「授業力」「知識」「表現力」です。（略）時間をしっかりと立て、生徒を教師自身のペースに持ち込んで、時間内に授業を終わらせることができるような「授業力」をつける必要があります。
			化－B 授業時間の配分
			化－C ・知識や引き出しの量 ・場の空気の牛耳り方 ・生徒との言葉のキャッチボール
			化－D 板書の仕方、声の出し方、言葉づかいである。
			化－E 同じ授業を各クラスで行うのですが、クラスによって授業の進み具合や説明の仕方に差がでてしまったので本当に教師になったら、どのクラスも平等に授業を行っていく必要があるということを学びました。また、実習では教材研究をする時間がありましたが現場の先生方はとても忙しそうだったので教師になるまでにある程度教材研究をしておく必要があると感じました。
			化－F 専門知識の量です。（略）今まで習ってきたものは、今習っているものとわずかながらでも関係していると思います。それらとどう結び付いているかという理論的背景が説明できるようになればベストだと思います。
			化－G 授業をしていて、とにかく知識不足を感じました。
			化－H 授業中になんでもかんでも答えやヒントを与えずで、生徒自身が考える機会が少なくなり、思考力が伸びにくい授業であるため、わざとぼけて考えさせる授業の方がよかった。
			生－A 叱る力。授業中に騒いでいる生徒に対し、しっかりと注意することができなかった。
			生－B 授業の進め方はまだまだ改善しなければならないことばかりでした。

主として関連する事項区分			
1 使命感や責任感, 教育的愛情等に関する事項			
	2 社会性や対人関係能力に関する事項		
		3 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	
		4 教科・保育内容等の指導力に関する事項	
		生－C 生徒に考えさせる授業を行う力が不足している。	
		生－D 生徒を見ながら授業を進める（反応をみながら）話をする時の間の取り方と抑揚のつけ方	
		生－E 今回の実習で生物以外の科目, 物理, 化学, 地学の勉強不足を痛感しました。	
		生－F 全体的な知識量, 勉強量が不足していたと思う。	

(注1－鈴木) 国は国際経営学科, 情は情報科学科, 化は化学科, 生は生物科学科の学生を指す。アルファベットは、『神奈川大学 心理・教育研究論集』神奈川大学教職課程研究室, 第33号, 2013年, pp.187-197に掲載されている回答と同一である。表5－1においては回答内容のポイント抜き書きしているため, 詳しくは本文を参照されたい。

(注2－鈴木) 回答の書き出しのところが該当する事項になっている。

表5－2 「もっと力をつける必要があると思うこと」 2013(平成25)年度 (39名)

主として関連する事項区分			
1 使命感や責任感, 教育的愛情等に関する事項			
	2 社会性や対人関係能力に関する事項		
		3 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	
		4 教科・保育内容等の指導力に関する事項	
国－A 言葉をしっかり選んで話すことを意識しなければならないと思った。はじめの方の授業では、生徒にとって傷つくかもしれない一言を言ってしまった時があった。今後このようなことのないよう、相手の立場になって考え、あたたかみのある人間として生きていきたい。			
			国－A 授業面では、ただ通り一辺に教えるのではなく、あえて生徒たちが考えつかないことを考えさせてみるなど、思考力をつけさせる授業を意識していきたい。
	国－B 生徒指導については、まだ生徒を注意する際に、根本の原因でこれはダメだときちんと注意出来ていないので、生徒を良く観察した上で適切に怒る事が大切だと考えています。		
			国－B 授業に対してはまだまだ甘すぎる所が多くあり、ただの雑学の授業で終わってしまっているため、その部分が今の自分の授業の課題と考えています。
			国－C 教材研究をもっと深く行い、生徒に分かりやすく伝える能力を身に付ける。
国－D 状況に応じて臨機応変に対応できる能力。もっと生徒がことがらを把握できるようにするコミュニケーション能力です。(略)そのために日頃から、人との接し方を意識し、常に振り返り反省していきたいと思う。			
		情－A 授業だけでなく、HRでも全体に気を配ることが必要であると思った。また、連絡事項が多い時は生徒が混乱しないように伝えるため、情報を整理する力が大切であると感じた。	

主として関連する事項区分			
1 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項			
	2 社会性や対人関係能力に関する事項		
		3 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	
			4 教科・保育内容等の指導力に関する事項
			情－B 教える力が必要だと思いました。板書計画に時間をかけても授業をするとあれこれ課題がでてくる。生徒の立場に立って授業計画が立てられていない。もっと予想する力も必要。
			情－C 授業準備を一生懸命やったが、指導教諭に準備不足だとよく言われた。だからもっと細かい部分まで教材研究をやるように心掛けたい。
			情－D ・導入でもっとわかりやすくユーモアのある発言ができるくらいの知識。 ・臨機応変に対応できる力。 ・説得力がある発言ができるくらいの学力
			情－E ・黒板の使い方、計画。 ・もっとわかりやすい噛み砕いた説明。 ・数学の知識・理解。
		情－F 第1に生徒ともっと話をする。（ホームルームをするにも、授業を程よく進めるにも、生徒との信頼関係が大切だとこの実習で強く思ったので。）	
			情－F 第2に生徒が興味をもってくれるような授業展開や指導力、またもっと生徒との一体感のある授業。
			情－G もっと生徒と向き合い、生徒の様子を見つつ、生徒に語りかけるように授業を行いたいです。（略）2つ目は、図やグラフの丁寧さです。（略）3つ目は時間配分です。もっと早く話しかける事を心がけたいと思います。
			情－H 説明する際、分かりやすくしようと考えたら、自分の話す時間が長くなってしまったので、授業の主役は生徒で、考え方など発表し、全員で共有していく授業の流れにしていかなければならないと感じました。
			情－I 特に授業での生徒の様子をみるが必要だと思いました。板書や演習など、生徒にどれだけ時間を渡せばいいか。また私が喋りながら板書させても良い部分はどこかなど、（略）
		情－J クラス運営はやはり難しかった。「生徒主体」を意識する一方でそうも言ってもらえない場面がいくつもあった。「集団で動く」ということをどのように意識づけるかが今後の課題であるが、それには教員同士が連携し、一環性のある指導が重要であることを学んだ。「正しいことを正しいと言える集団」となることを目指し、教員として成長していきたい。	
			情－K 生徒が大学入試の過去問題をもってきたり、授業中に質問にきたりするので、その場ですぐ答えられるように、数学に関する専門知識をもっとつける必要があると思いました。
			情－L 教材研究 机間巡視 言葉の言い間違いをなくす 証明をうまくまとめる 生徒を注目させる 板書の仕方
			情－M 授業運びや生徒の顔を見て臨機応変に内容をかえられる指導力です。
			情－N やはり生徒にとって分かりやすい授業を実行する分、どうしてもユーモアがある展開に欠けると感じたので、1コマの中で生徒を引きつけつつもしっかりおさえる所はやるという授業作りが必要であると感じた。



主として関連する事項区分			
1 使命感や責任感, 教育的愛情等に関する事項			
	2 社会性や対人関係能力に関する事項		
		3 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	
			4 教科・保育内容等の指導力に関する事項
			情－O 板書するときのスペースの使い方をもっと練習をしなければいけないと思った。
			化－A 授業中に生徒たちに考えさせたり, 人に教えたりして頭を使わせること。また生徒に対して, 自ら話しかけてコミュニケーションをとっていかないといけない (略)。
			化－B 授業で, 計算など, 説明をもっと丁寧に行う必要がある。イメージさせるために, モデル化を行うときに, モデル化を行う上で生徒たちが混乱しないか, しっかり考える必要がある。
			化－C もっと生徒や学級の様子を見る余裕を持てるような自信をつけたいと思う。また授業中とそうでない時の話し方や接し方の (略) メリハリを意識する必要もあると思う。研究授業でトラブルが起きた班に対してうまく対処できなかったもので, それらのトラブルに対応できるような冷静さや判断力も身につけたい。
			化－D 説明する際に, 一方通行になりがちでした。説明だけにならないように, 生徒の顔を見ながら話すべきでした。 話す時に体が黒板を向きながらにならないように心掛けること。生徒に今は話を聞く時, ノートを書き出す時というようにメリハリをつけさせる授業が行えていなかったもので改善したいと思います。
			化－E 教材研究に費やす時間を多くし, 生徒のどんな質問にも答えられるようにし, 何度も授ける必要があると感じた。
			化－F 実験の授業を行うときに, 課題提示から, 考察, まとめまでを1時間内に終わらせることです。(略) スムーズに授業を行うために, 予備実験をしっかり行って, 生徒の目線で問題になりそうなところへの対処と授業の構成をしっかりたてて, 授業に臨みたいと思いました。
			化－G 知識を与えることだけが教育ではないと実習を通して学んだ。生徒が自発的に考え, 課題を解決する術を培うことができる授業を行うことが重要であると感じた。そこで今後は学習した内容がどのように活用できるかを考えさせるような授業づくりができるよう, 多くの授業運営の方法を学ぶとともに, 様々な分野に対して教養を深め, 授業づくりをする上での発想の助けにしたい。
			化－H 指導力! 授業や生徒指導において, 一番大切な事, 伝えたい事を指導する際に, 伝える力が弱く, 生徒にその重要性がなかなか伝わらなかった。伝えるときの間や緩急などの指導力が不足していると思った。
			化－I 理科は“発見授業”である。私が行った授業では, 生徒の学習活動が不足していた。授業の展開を考え直す必要があると思うし, そのためには, もっともっと教材研究が必要だと思う。また授業のレベルが高いというご指導をいただいた。クラスの標準レベルに合わせた授業のつくり方を見つけることが大切だと思う。

主として関連する事項区分			
1 使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項			
	2 社会性や対人関係能力に関する事項		
		3 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	
			4 教科・保育内容等の指導力に関する事項
			化－J 導入でもっと生徒の興味を引き，授業に惹き込む力がほしいと思った。そして考えたことを生徒に発表させる時，その発言をうまく活かしながら授業を進め，すべての発言を回収しながらまとめて落としていくことができるようになりたい。
			化－K 授業にメリハリをつけること。（略）意識して，声の大きさ，高さを変えて，生徒が集中しやすい授業にしたい。
			化－L ・生徒に教える，伝えることが難しい。
			化－M ・教材研究 ・授業の導入研究 ・先生方との密なコミュニケーション
		化－N 特に生徒指導の難しさを改めて重く受け止めました。行動を変えさせるためには，心に働き掛けなければなりません。人の心を動かすのは大変難しいことです。生徒と共感的に理解し合えるよう，考えを深め，経験を積み重ねていきます。	
			生－A 時間の使い方をもっと上手にしなければならなかったと感じた。今回私が痛感したのは，自分の作業ペースの遅さである。社会人としての常識，コミュニケーション能力のなさを痛感し，以後気を付けていかなくてはならないと思った。
	生－A 社会人としての常識，コミュニケーション能力のなさを痛感し，以後気を付けていかなくてはならないと思った。		
			生－B 身近に感じられるような話や授業内容が科学技術に応用されている例を紹介したのは良かったが，それについての知識が足りないため，説明が十分にできていないところがあった。（略）できるだけ教材研究には時間をかけて，しっかり準備をして，授業をしていきたいと思った。
			生－C 当たり前のことですが，基礎的な学力や知識が不足していると感じました。あとは生徒全員が考えるような質問の仕方，授業展開をもっと考えなければいけないと感じました。
			生－D 理科の知識をつけることが必要。自分のクラス以外の生徒たちの名前も覚えるべきだと思う。
		生－E 生徒にとって，教師の一言一言が大切なのだなと思った。朝，帰りでSHRでのアドリブや，各学級での授業内での言いまわしの方法をもっと改善する。	
			生－F 生物の知識を全体的に深くすること。自分の専門分野である遺伝学及び分子生物学に関係する生物の範囲については問題無いのだが，その他の興味が無い範囲（生態系や進化）については分からない点や用語があるので勉強する必要がある。

（注1－鈴木）国は国際経営学科，情は情報科学科，化は化学科，生は生物科学科の学生を指す。アルファベットは、『神奈川大学 心理・教育研究論集』神奈川大学教職課程研究室，第34号，2013年，pp.127-138に掲載されている回答と同一である。表5－2においては回答内容のポイント抜き書きしているので，詳しくは本文を参照されたい。

（注2－鈴木）回答の書き出しのところが該当する事項になっている。

## まとめ

筆者は、「教職実践演習」が4つの事項を含む内容でなければならないという捉え方をしていたが、本稿に関わる作業をする中で、教職課程の科目の単位を習得し、本学のような教員免許取得者の学力面での「教員としての適格性」を補強する取り組みによって、4つの事項の基礎作りはできているのだと考えられるようになった。

4つの事項からなる「教員の適格性」は、別々のものではなく、4の授業を中心に置きながら、4→3→2→1と対象を広げ、基本的な考え方に至るという関係にあると捉えると、あえて4区分して捉える意味もわかる。

学生は、「教員としての適格性」を教育課程の授業のみならず、学校ボランティア活動、模擬授業、グループワーク、発表、介護等体験、教育実習等の過程で育んでいく。

これらが4つの事項にしたがって育まれているかどうかを見るのが「教職実践演習」の役割になるが、教育実習後、表2『教職実践演習』の到達目標及び目標到達の確認指標例』で期待されているような、学生が子どもたちとかかっている場面に大学の教員が密着して、関わり方を評価するような設定はまずできない。この点の確認を求められるならば、実習校の指導教諭による教育実習評価票の評価内容や、教育実習記録の記述内容も判断資料として活かせるだろう。

また、「2 社会性や対人関係能力に関する事項」の内容として、教員間、そして、保護者や地域との関係づくりを求められているが、これらは、教員になる段階の初任者研修から求めてよい内容ではないか。教員も徐々に育つものであり、教育実習でも、大学でも指導の難しい内容であり、「教職実践演習」で単位を修得しても、具体的な場面での対応力を保証することはできない。入職時の指導時点から始めるべき内容であろう。

現職教員に求める「適格性」をそのまま学生に求めるのではなく、免許取得段階で求める力と採用されたときに求められる力をわけてそれぞれのステップで考えることはできないだろうか。

このような捉え方が可能ならば、学生が教育実習後、自分の課題と自覚した事柄を軸としながら、個々人が異なるテーマで学習を進めていき、発表し合うなかで1から4の事項の大切さを自覚できるような授業構成が可能となる。